

【資料1】

地域医療構想に基づく取組について



和歌山県湯浅保健所
保健課

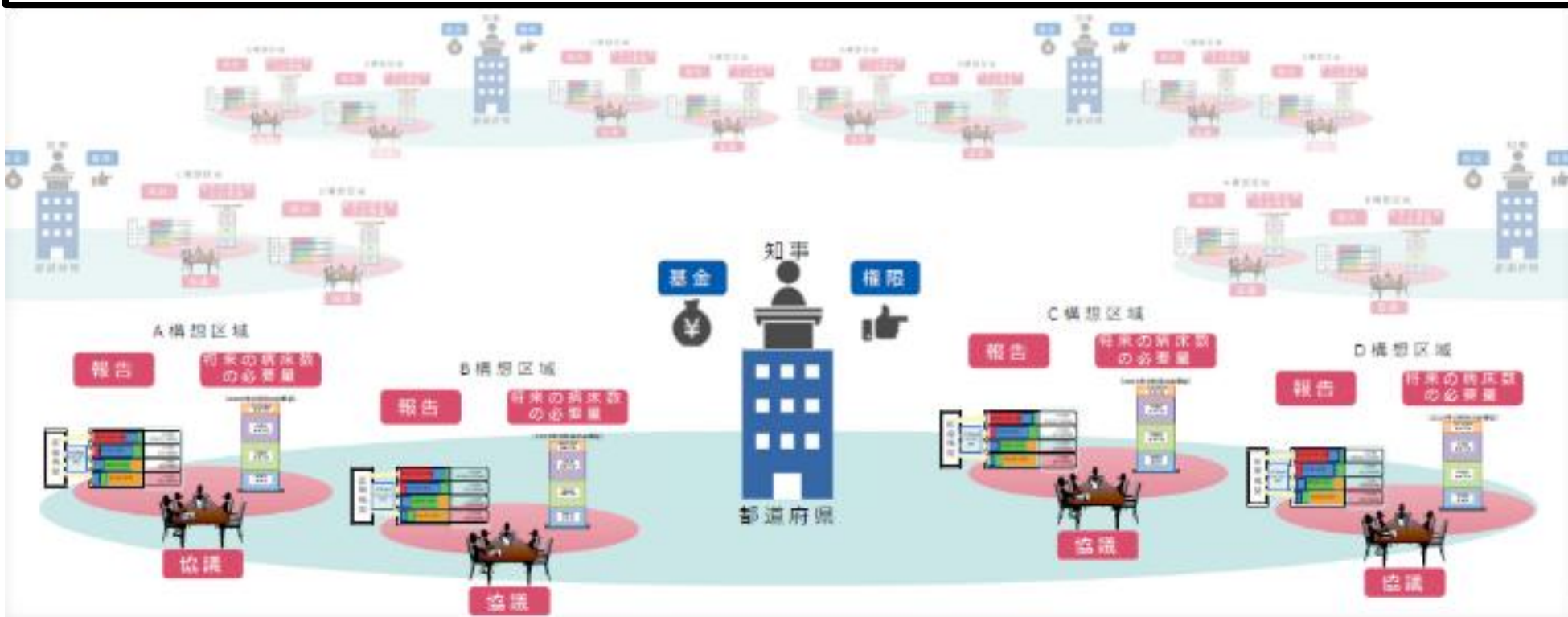
令和7年8月28日

地域医療構想について

○ 地域医療構想は、中長期的な人口構造や地域の医療ニーズの質・量の変化を見据え、医療機関の機能分化・連携を進め、良質かつ適切な医療を効率的に提供できる体制の確保を目的とするもの。

○ ①各構想区域における2025年の医療需要と「病床数の必要量」について、医療機能(高度急性期・急性期・回復期・慢性期)ごとに推計し、地域医療構想として策定、②各医療機関の現在の状況と今後の方向性を「病床機能報告」により把握、③各構想区域に設置された「地域医療構想調整会議」において、病床の機能分化・連携に向けた協議を実施。

○ 都道府県は、④「地域医療介護総合確保基金」を活用し、医療機関の機能分化・連携を支援。さらに、自主的な取組だけでは進まない場合、⑤「医療法に定められている権限の行使を含めた役割」を適切に発揮することで、地域医療構想の実現を図る。



地域医療構想の実現に向けた取組について

平成28年度 平成29年度 平成30年度 令和元年度 令和2年度 令和3年度 令和4年度 令和5年度 令和6年度

地域医療構想調整会議

医療機関相互の協議により、各医療機能の必要量に向けて病床を再編

構想策定

- 各医療機関における具体的対応方針の速やかな策定に向けた取組
- 長期間非稼働となっている病床の廃止を求める通知

- 地域医療構想推進アドバイザー設置

- 『重症心身障害児施設の病床』の取扱い

国との協議を重ね、現状の病床数より控除する特例扱いとなる。

- アンケートを実施し、対応方針を確認

- ・今後担う予定の役割
- ・2025年における機能別の病床数 など

- 非稼働病床に係るヒアリングの実施

- 「推進区域」設定
(有田・新宮)



病床機能報告

2015年 病床機能報告	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	未分類	総計
2025年までに増減すべき 病床数	▲442	▲2,959	1,907	▲1,258	▲356	▲3,108

県全体	総計	対応方針の策定・検証状況（R7年3月現在）			
		合意・検証済		協議・検証中	
病床数	10,910床	10,521床	96.4%	389床	3.6%
医療 機関数	124機関	115機関	92.7%	9機関	7.3%

〔進捗目標：策定率が100%に達していない場合は、対応方針の策定率。
策定率が100%に達している場合は、実施率。〕

約3,000床が過剰と判明

病床再編に係る取組

- 病床機能を明確化する
「定量的基準」導入

- 地域密着型協力病院【県独自制度の創設】

急性期、高度急性期病院と在宅医療とをつなぐ
役割を担う医療機関として指定
(27病院 ※R7.6現在)

- 「定量的基準」
見直し

各種補助金等を
組み合わせた取組み

地域医療介護総合確保基金

➤ 病床機能分化・連携推進事業補助金

病床機能の転換や廃止を行う医療機関に対し、
施設や設備整備等に要する経費を支援

- ① 回復期病床整備事業
- ② 高度急性期病床整備事業
- ③ 病床廃止等事業

➤ 病床機能再編支援事業給付金

病床減少を伴う病床機能再編等に対し、
病床利用率と減少病床数に応じた給付金を支給

- ① 病床減少に伴う財政支援
- ② 病院統合に伴う財政支援

病床数適正化支援事業

R6国経済対策補正予算

患者減少等により経営状況の急変等を受けて、病床数の適正化
を進める医療機関を対象とした経費相当分の給付金を支給

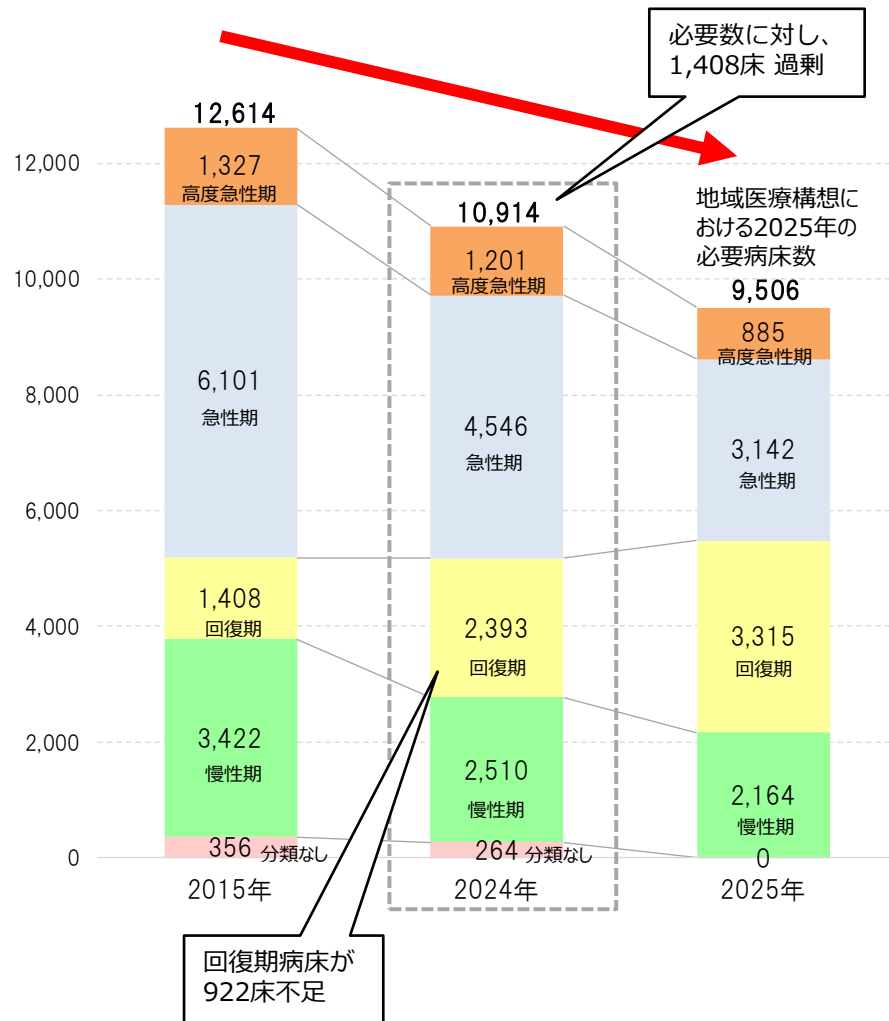
【交付額】

病院（一般病床・療養病床・精神病床）・有床診療

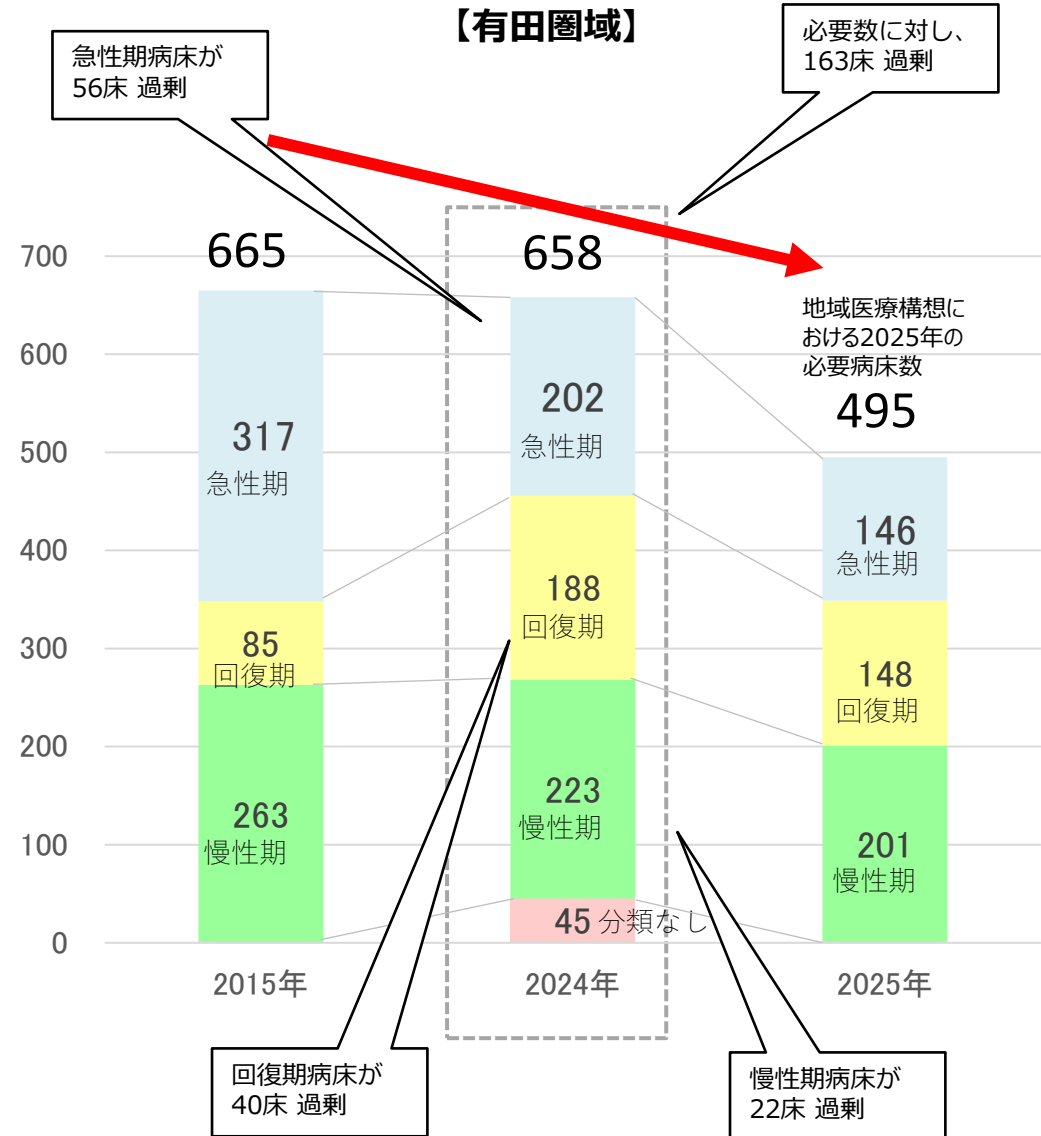
4,104千円/床

地域医療構想における機能別病床数の推移

【和歌山県全体】



【有田圏域】



医療機能ごとの病床数の推移（有田保健医療圏）

	2015年7月1日現在（A）						2025年4月1日現在（B）						増減（B）-（A）						
	計	高 度 急性期	急性期	回復期	慢性期	分類 なし	計	高 度 急性期	急性期	回復期	慢性期	分類 なし	計	高 度 急性期	急性期	回復期	慢性期	分類 なし	
有田市立病院	153		108	45			153		54	54		45	0		▲ 54	9		45	急性期から回復期へ54床転換（2017.7.1） 回復期45床 休床中
済生会有田病院	184		104	40	40		149		69	80			▲ 35		▲ 35	40	▲ 40		慢性期から回復期へ40床転換（2016.11.1） 急性期を35床廃止（2025.2.1）
西岡病院	120		60		60		120		32	28	60		0		▲ 28	28			急性期から回復期へ28床転換（2015.9.1）
桜ヶ丘病院	99				99		99				99		0						
有田南病院	71		26		45		71			26	45		0		▲ 26	26			急性期から回復期へ26床転換 （2018.11.1【24床】、2019.7.1【2床】）
土屋クリニック	19				19		19				19		0						
ファミリー産院ありだ	0						12		12				12		12				急性期を12床設置（2024.3.1）
森下整形外科	19		19				0						▲ 19		▲ 19				無床化（2020.1.1）
おおち眼科	4		4				0						▲ 4		▲ 4				無床化 （2017.3.15【2床】、2018.12.1【2床】）
しまクリニック	10		10				0						▲ 10		▲ 10				無床化（2021.12.15）
はしもとクリニック	19		19				0						▲ 19		▲ 19				無床化 （2023.7.15【15床】、2024.2.8【4床】）
総計（C）	698	0	350	85	263	0	623	0	167	188	223	45	▲ 75	0	▲ 183	103	▲ 40	45	
2025年における必要病床数（D）							495		146	148	201								
（C） - （D）							128		21	40	22	45							

「重症心身障害児施設の病床」の取扱いについて

- 地域医療構想において、「重症心身障害児施設の病床」は、「慢性期病床」として算定。

矛盾が存在

- 医療法に基づく「医療計画」においては、下記の特例措置が存在

特定の患者のみが利用する「重症心身障害児施設の病床」や「国立ハンセン病療養所の病床」は、病床数に算定しない。

(1) 上記に対する対応

- 関係医療機関に対する状況調査を実施し、地域の実情を確認。
様々な機会を捉えながら、国と協議を重ねる。
- 『地域医療構想策定』後も、国との協議を継続して実施。

- ・入院患者の多くが、他府県を含む圏域外より多く流入
- ・10年以上長期入院する患者が全体の半数以上を占める
- ・例えば、40年以上長期入院している患者なども珍しくない
- ・新規入院患者、退院患者数はごく少数

(2) 国との協議を重ねた結果、国との合意に至る(平成28年12月)

【取扱方針】

「重症心身障害児施設の病床」について、**現状の病床数より控除する特例扱い**とする。

「2025年の必要病床数」との比較（重症心身障害児施設の病床数を考慮）

圏域名	医療機能	【1】 2025年度 必要病床数 (床)
和歌山	① 高度急性期	588
	② 急性期	1,674
	③ 回復期	1,836
	④ 慢性期	863
	⑤ 分類なし	
	小計	4,961
那賀	① 高度急性期	48
	② 急性期	267
	③ 回復期	261
	④ 慢性期	385
	⑤ 分類なし	
	小計	961
橋本	① 高度急性期	65
	② 急性期	267
	③ 回復期	327
	④ 慢性期	78
	⑤ 分類なし	
	小計	737
有田	① 高度急性期	
	② 急性期	146
	③ 回復期	148
	④ 慢性期(特例)	201
	⑤ 分類なし	
	小計	495
御坊	① 高度急性期	20
	② 急性期	210
	③ 回復期	191
	④ 慢性期	234
	⑤ 分類なし	
	小計	655
田辺	① 高度急性期	120
	② 急性期	404
	③ 回復期	340
	④ 慢性期	249
	⑤ 分類なし	
	小計	1,113
新宮	① 高度急性期	44
	② 急性期	174
	③ 回復期	212
	④ 慢性期	154
	⑤ 分類なし	
	小計	584
県計	① 高度急性期	885
	② 急性期	3,142
	③ 回復期	3,315
	④ 慢性期	2,164
	⑤ 分類なし	
	小計	9,506

【2】 2024.7.1 現在 病床数	【1-2】
1,069	▲ 481
2,147	▲ 473
1,183	653
1,022	▲ 159
97	▲ 97
5,518	▲ 557
360	▲ 93
296	▲ 35
293	92
949	12
6	59
472	▲ 205
214	113
149	▲ 71
841	▲ 104
202	▲ 56
188	▲ 40
223	▲ 22
45	▲ 45
658	▲ 163
8	12
370	▲ 160
171	20
259	▲ 25
808	▲ 153
113	7
646	▲ 242
281	59
243	6
8	▲ 8
1,291	▲ 178
5	39
349	▲ 175
60	152
321	▲ 167
114	▲ 114
849	▲ 265
1,201	▲ 316
4,546	▲ 1,404
2,393	922
2,510	▲ 346
264	▲ 264
10,914	▲ 1,408



「重症心身障害児施設の病床」数を、
4圏域の慢性期病床より控除

重症心身障害児施設 の病床数		医療機関名称
和歌山	57	愛徳医療福祉センター
那賀	136	つくし医療・福祉センター
橋本	0	
有田	0	
御坊	163	国立病院機構 和歌山病院
田辺	60	南紀医療福祉センター
新宮	0	
県計	416	4医療機関

病床再編等の対象となる病床数は
416床減少し、「約1,000床」に

【3】 2014年7月1日現在 の病床(床) 重症心身障害児を	【1-3】
1,069	▲ 481
2,147	▲ 473
1,183	653
965	▲ 102
97	▲ 97
5,461	▲ 500
360	▲ 93
296	▲ 35
157	228
813	148
6	59
472	▲ 205
214	113
149	▲ 71
841	▲ 104
	0
202	▲ 56
188	▲ 40
223	▲ 22
45	▲ 45
658	▲ 163
8	12
370	▲ 160
171	20
95	138
645	10
113	7
646	▲ 242
281	59
183	66
8	▲ 8
1,231	▲ 118
5	39
349	▲ 175
60	152
321	▲ 167
114	▲ 114
849	▲ 265
1,201	▲ 316
4,546	▲ 1,404
2,393	922
2,094	70
264	▲ 264
10,498	▲ 992

地域医療構想の今後の進め方

■ 構想区域毎の地域医療構想の推進に係る目標は、2023年度当初に対応方針の策定率が100%に達していない場合は、対応方針の策定率。

既に対応方針の策定率が100%に達している場合は、合意した対応方針の実施率。

(和歌山と田辺構想区域以外の構想区域については、すべての医療機関の具体的対応方針合意済)

■ 2025年の課題【有田保健医療圏】

・必要病床数に対して病床過剰(+163床)

急性期病床(+56)、回復期病床(+40)、慢性期病床(+22)

・非稼働病床が86床

課題を解決するためにこれまでの取り組みを引き続き継続 (強化)

① 非稼働病床については、病床の廃止や他施設への転換について引き続き依頼 (【具体的な対応】ヒアリングを実施)

〈ヒアリング対象〉

非稼働病床数が 10床以上の医療機関

〈ヒアリング内容〉

非稼働の理由、非稼働病床の今後の予定 等

※非稼働病床を廃止する場合など、具体的な方針が決まっている場合は調整会議で合意を得る。

※病床を削減や機能転換する際には、補助金等を使える可能性有。

② 今後の対応方針への実施状況を確認

③ 病床機能に係る定量的基準を参考に、病床機能の報告を依頼 (【具体的な対応】定量的基準に基づいた報告を再度依頼)

非稼働病床の状況（有田保健医療圏）

NO	医療機関名	R6			R5		R4		R3		R2		R2～R6
		病床数 (R6.7時点)	非稼働 (R5実績)	非稼働 割合	病床数 (R5.7時点)	非稼働 (R4実績)	病床数 (R4.7時点)	非稼働 (R3実績)	病床数 (R3.7時点)	非稼働 (R2実績)	病床数 (R2.7時点)	非稼働 (R1実績)	非稼働 病床平均
1	有田市立病院	153	37	24.2	153	33	153	37	153	22	153	27	31.2
2	社会福祉法人 恩賜財団 済生会 有田病院	184	21	11.4	184	8	184	5	184	10			8.8
3	医療法人 たちばな会 西岡病院	120	15	12.5	120	6	120	4	120	8			6.6
4	桜ヶ丘病院	99	1	1.0	99	3	99	1	99	1			1.2
5	有田南病院												
6	土屋クリニック												
7	ファミリー産院ありだ	12	※12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	合計	568	86	15.1	※R6.4.1～診療開始のため、割合等を算出していない。								